

施策番号	2103		
施策名	創造を続ける南部地域のまちづくり		
概要	京都の新たな活力を担う地域として、多様な主体の連携の下、更なる企業集積を図るとともに、創造的な活動を支える快適で魅力ある都市環境を形成する。		
担当局・部室	都市計画局・都市企画部	共管局・部室	
上位政策	21 土地利用と都市機能配置		
施策に関する 主な分野別計画等	新・京都市南部創造まちづくり推進プラン らくなん進都（高度集積地区）まちづくり推進プログラム		

施策の評価

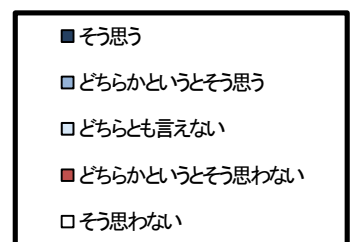
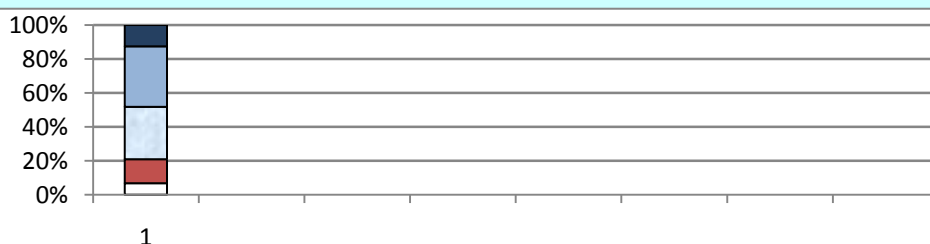
1 客観指標評価

指標名	年度	23年度	24年度評価					
			前回値	最新値	目標値	達成度	評価	指標のウェイト
1 らくなん進都への企業立地件数(件)	-	d	15	11	25	44.0%	e	1.00
2 -	-	-	-	-	-	-	-	-
3 -	-	-	-	-	-	-	-	-
4 -	-	-	-	-	-	-	-	-
5 -	-	-	-	-	-	-	-	-
6 -	-	-	-	-	-	-	-	-
		d	客観指標総合評価				e	

2 市民生活実感評価

*この評価は、毎年5月頃に実施している京都市市民生活実感調査のアンケート結果を基にしています。

設問	24年度回答					有効回答者数	評価
	そう思う	どちらかと言うとそう思う	どちらとも言えない	どちらかと言うとそう思わない	そう思わない		
1 京都のまちの南部地域が発展してきている。	63	179	155	71	34	502	b
	12.5%	35.7%	30.9%	14.1%	6.8%		
2 -							-
3 -							-
4 -							-
5 -							-
						市民生活実感調査総合評価	b



3 総合評価(客観指標総合評価+市民生活実感調査総合評価)

D	施策の目的があまり達成されていない					23 年度	C
	重み付け	<input checked="" type="checkbox"/> 客観指標	e	<input type="checkbox"/> 市民の実感	b		
(重み付けの理由) 施策の性質として、市民の生活実感に施策の効果がすぐには反映されにくいものであるため、客観指標を重視する。						年 度	-
(原因分析) ・景気動向の影響による企業の設備投資意欲の減退や、ニーズに応じた用地取得が困難なこともあり企業立地件数が伸びなかったため、客観指標評価はe評価となった。 ・阪神高速8号京都線の全線開通や京都駅とらくなん進都を直結するバスの本格運行等により、南部地域の利便性が向上したことから、市民生活実感評価はb評価となった。							

今後の方向性の検討

<この施策を構成する事務事業>

	事業名	事業費の状況(千円)		24年度事務事業評価結果 における目標達成度評価	担当局
		23年度 決算額	24年度 予算額		
1	らくなん進都のまちづくりの推進	29,290	24,978	かなり良い	都市計画局
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					

*予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含みます。

<今後の方向性>

企業立地促進制度・企業立地に協力する土地所有者に対する支援制度の拡充や都市計画手法等の活用による事業環境の整備などにより更なる企業集積を促進するとともに、企業敷地における緑化の促進、自転車とバスの相互利用等による公共交通の充実等を図り、企業の進出意欲を高める魅力あるまちづくりを推進する。

施策名	2103	創造を続ける南部地域のまちづくり				
指標名	らくなん進都への企業立地件数（件）					
担当課	都市づくり推進課	連絡先	222-3503			
1 指標の説明						
らくなん進都(注)内に立地した企業の件数 (注)新しい京都を発信するものづくり拠点としてまちづくりを進めている地域。 油小路通を中心に概ね十条通、宇治川、東高瀬川、国道1号に囲まれた約6.07haの地域。						
2 指標の意味			3 算出方法・出典等			
南部地域においてもものづくり企業の本社・研究開発・生産機能が集積していることを示す指標			建築確認申請件数（完了検査済） 出典：事業担当課調べ			
4 数値						
	前回数値 22年度	最新数値 23年度	推移	目標値		
数値	15	11	4件減	数値 25	根拠 過去10年間で最も高い数値（平成18年度：25件）に設定	
	全国順位	中長期目標			備考	
数値		数値	目標年次	達成度		
5 評価基準		6 基準説明		7 評価結果		
最新数値が過去10年間の a：最高値以上 b：最高値と平均値の間 c：平均値 d：平均値と最低値の間 e：最低値以下		当該指標は過去からの推移によって評価されるべきものであるため、平成12年度から平成21年度までの10年間における最高値以上のものをa、平均値をcとし、最低値も含めた按分として基準を設定した。 最高値 25件（平成18年度） 平均値 19件 最低値 11件（平成17年度）			23	
				-	24	
				d	e	